

穂 学

平成29年度

広州日本人学校学校便り

[No. 4]

平成29年7月4日(火)

発行責任者 教頭 渡邊美佐子

西安修学旅行

校長 丸本 亙

6月の朝会で全校の子どもたちに、『「心」や「思い」は頭の中や胸の中にあるもので、他の人たちには伝わっていかないが、「心遣い」や「思いやり」はしっかりと目に見え、相手に伝わる事です。重い荷物を持っている人を手伝ったり、お年寄りに席を譲ったりすることは、心で思ったことを行動に表して伝えることだと思います。みなさんも心の中で思うだけでなく、良いと思うことは率先して行動に移し「思いやりの心」を伝えるようにしてください。』と話しました。子どもたちが、「思いやりのある心遣いのできる子」に育ってくださることを願っています。

さて、6月14日から2泊3日で小学部6年生が西安に修学旅行に出かけました。事前に調べ学習をしっかりと行い、西安は昔長安と呼ばれ、日本の平城京や平安京の見本となった町であることを理解した上で見学に臨みました。出発が遅れ、1日目の見学場所を最終日に回す形で修学旅行をスタートしましたが、見学場所では真剣に案内の方の説明を聞き、前向きに学習に取り組む姿が大変印象的でした。世界遺産でもある兵馬俑の見学の際には、一つ一つの表情の違いや大きさの違いに感心すると共に、その多さに圧倒されていました。日本にいてはなかなか見学することができない貴重な物を直に見ることができ、中国の歴史の奥深さや素晴らしさを肌で感じる事が出来たものと思います。3日間の修学旅行の中で、歴史を学ぶという「学習」は勿論のこと、仲間が集団で行動することの意義や仲間を思いやる心を十分に学ぶことができたと思っています。自分のことだけでなくグループのため、学級のため、学年のためにどう動いたら良いのかを考えながら動いている姿が数多く見られました。その点でも素晴らしい修学旅行になったと思っています。

帰りの飛行機が、広州の雷という天候のため海南島に一時着陸し、帰りが遅くなり、保護者の方々には大変ご心配をおかけし申し訳ございませんでした。遅い時刻になりましたが、無事広州に戻ることができましたのも、多くの方々のお力添えがあったからだと思っております。ただ、この非常事態の中でも、広州へ向けての再離陸を待っている間、子どもたちはお互いに励まし合ったり元気に声を出し合ったりしながら、友情を深め合っている姿があり感心させられました。大変な事態に巻き込まれましたが、また一つ子どもたちは成長したように感じました。

学校としては、対応の仕方等について今後十分に話し合いを持って行きたいと考えておりますので、ご理解の程、よろしくお願い致します。

～ 中国の歴史感じる 西安修学旅行 ～

